21 世紀の日本のあるべき姿

2000 年 9 月 28 日
田中明彦

1.　21 世紀の世界

冷戦の終結—世界的課題の優先順位の非明確化
グローバリゼーション—世界的影響の伝播の速度増大
民主化
主体の多様化と主体間の関係の複雑化
　　国家、国際組織、企業、NGO、個人
三つの圏域
　　市場経済・民主主義が成熟し、基本的に平和で安定した圏域
　　近代化途上、近代国家建設中の圏域(武力紛争も可能)
　　社会秩序の崩壊しつつある圏域(内戦、飢餓に苦しむ地域)

2.　国家の役割

「一定の領域に定住する人々(国民)の安全を確保し、かれらの利益を集約し、その維持・増進に努める組織」
(最低限の利益としての安全、それに加えて繁栄、望ましい価値)
国家の相対的影響力の低下
世界政治における領域代表としての意味

3.　日本のあるべき姿

日本の現在の姿—大規模国家としての日本
　　国民総生産、人口、排他的経済水域、貿易、CO2 排出量、他
日本国民にとっての日本
　　安全の確保(憲法問題、有事法制、外交努力)
　　繁栄の継続(経済システムの改革、少子高齢化対策)
　　価値観の維持(自由、民主主義、日本らしさ、日本人の尊厳)
　　効率的・効果的領域代表としての日本—ワード・パワーの問題
世界にとっての日本
　　大規模国家としての責任(世界政治のリードする責任)
　　世界経済の成長(WTO、自由化の問題)
　　世界平和の維持(アメリカとの関係、
　　国連平和維持活動などの問題)
　　地球環境の保全
　　普遍的諸価値の増進